

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「0+1 (ゼロ・プラス・ワン)」(挑戦と創造) きのと違う自分に出会える カナオカン・アカデミー!

人生いろいろ、山あり谷あり。5年後、10年後の未来など誰にもわからない。だからこそ、人生は面白い。であるから、たとえどのような道に進もうとも、いかなる未来が待ち構えているとも、うまくいっている時も、そうでない時も、一日一日を大切に、くじけず、あきらめず、失敗を恐れず、校訓「克己(セルフ・コントロール)」の精神で、しなやかに、たおやかに、クリエイティブに、前を向いて、勇気をもって一步を踏み出そう。

本校は、そうした生涯にわたって自分自身の人生を切り拓いていくことのできる基礎体力を身に付けるための、知徳体のトレーニングセンターである。したがって本校の全教職員は、日々、自らの専門性をブラッシュアップし、人間性を高め、学園生活のあらゆるシーンにおいて、生徒一人ひとりの能力を最大限に引き出すためのプロフェッショナルな工夫と刺激と情報を、惜しみなく提供し続ける。

すべての生徒と教職員が、日々、ゼロ・プラス・ワンを実践! きのと違う自分に出会える! そんな創造的な学園空間であらんとする。

- 1) 「0+1 (ゼロ・プラス・ワン)」スピリッツの育成と習慣化(学習&生活習慣の確立と基礎学力の定着、言語技術のマスター、進路実現)
- 2) 「0+1 (ゼロ・プラス・ワン)」スピリッツを発揮できる環境の整備(安心安全!地域に貢献するグローバルなカナオカン・スタイルの確立)

2 中期的目標

1 「0+1 (ゼロ・プラス・ワン)」(挑戦と創造)スピリッツの育成と習慣化 for S&T(学習&生活習慣の確立と基礎学力の定着、進路実現)

(1) 「カナオカン・アカデミー」(ゼロ・プラス・ワン道場)で、授業力を改善&最強化し、基礎学力の定着を支援

ア 若手を中心とする教科横断的メンバーでプロジェクトチームを結成。ICTの利活用が可能な実験的未来型教室の創設や意識改革などを通じて、全教員の授業力を改善し、最強化する。

※生徒向け学校教育自己診断(H25)「授業はわかりやすい:肯定的回答37.4%」を、H26=70%、H27=80%、H28=90%超とする。

※学校教育自己診断(H25)「授業では、さまざまな工夫がされている:肯定的回答47%」を、平成26年度70%、27年度80%、28年度90%超とする。

イ 全授業の冒頭で、その授業のプラス・ワン=「タイトル(めあて)」を明示する。生徒が授業のビフォー・アフターで「1時間前の自分と違う自分がここにいる!」「きのと違う自分に出会えた!」と思えるようなプラス・ワンを、全教職員が常に提供し続ける。

※平成26年度中に、授業の「タイトル(めあて)」明示率100%として、以後維持継続していく。

ウ 学習ガイダンスや、勉強合宿、補習講習の充実、自習室の整備、学力生活実態調査の実施などで、学習習慣の確立と基礎学力の定着を徹底サポートする。その際、生徒のデータを一元化し、現在の学年ごとの計画から3年間を見通した学習支援プランを作成して、生徒の能力開発を支援していく。

※26年度上期中に新1年生のデータの一元化を100%実現。以後、毎年新入生のデータ一元化を恒常化して経年変化を注意深く観察していく。

※学力不足による留年・中退率を限りなくゼロに近づけ、年度末の進級率・卒業率を100%とし、維持継続していく。

※本校が進学実績の指標と位置付ける難関校(国公立・関関同立)、私立中堅校の合格者を、H28にはそれぞれ20人超、150人超とする。

※卒業時アンケートの学校満足度を、平成28年度までに限りなく100%に近づける。

エ【H26.6.30「ICTを活用した先進的な学習環境プラン」支援校決定につき付記】府立高校間でインターネット双方向ライブ配信システムを構築して、リアルタイムでインタラクティブな授業交換ができる環境を実験的に整え、学校相互の交換授業や他校の指導教諭によるサテライト授業を実施する。これにより、学校間で切磋琢磨して、授業力の改善と最強化を図り、生徒に還元する。

(2) 生活習慣の確立と、一人ひとりの時間創造をサポートし、時間を有効に活用して「ゼロ・プラス・ワン」(挑戦と創造)を習慣化する

ア 規則正しい生活リズムを作る調査を実施し、啓蒙・支援活動を通じて、人生の限られた時間を取り戻す。

※携帯・スマホの使用時間を、高校生平均使用時間(男子4.3時間、女子6.4時間)の半分以下にする。

※総遅刻者数を、H26に3,000以下、H27に2,000以下、H28には1,500以下とする。

(3) 「0+1 (ゼロ・プラス・ワン)」を実現する【骨太の日本語力養成プロジェクト】～生きる力の源泉「言葉のチカラ(言語技術)」を徹底マスター

ア 思考力の源泉である「語彙力」を増強する。

※図書室を情報発信基地として、各種の情報や仕掛けを間断なく提供。利用者数(H25=一日平均5人)を、H26=30人、H27=50人、H28=100人超とする。

※漢字検定や語彙力検定など日本語力テストを導入して、在学中に全員1回は受験、高校生標準レベル(漢検なら準2級)合格率80%超とする。

イ CST:日々の授業で、コミュニケーション能力(CS:Communication Skill)のトレーニングを意識

※生徒向けの学校教育自己診断(H25)「授業参加度」(H25=58.8%)を、平成26年度70%、27年度80%、28年度90%超とする。

※知的書評合戦ビブリオバトルの導入など特別な仕掛けで語彙力増強+CST(校内ビブリオバトル全員参加と、ビブリオバトル大阪大会出場&上位入賞)

ウ SST:ソーシャルスキル(SS:Social Skill)トレーニング(傾聴力ピアリスニング、アンガーマネジメントなどのエモーショナルリテラシーの育成)

※まずは教員向けに各種のSST研修を実施し(研修参加率目標100%)、次年度以降、生徒向けのカリキュラムや教材を作成、実施する。

2 「0+1 (ゼロ・プラス・ワン)」(挑戦と創造)スピリッツを発揮できる環境の整備:安心安全!グローバルなカナオカン・スタイルの確立

(1) 安心安全な学園環境を整える

ア 教師による上から目線の命令形の校内アナウンス(「～しなさい」「来なさい!」など)や、「～させる」など使役の助動詞の文章、さらには指導という名の怒声を消し去り、いつも心穏やかでいられる学園空間を演出する。そのために「金高スマイル・プロジェクト」チームを編成する。

イ 地域やPTA、周辺の小中学校などとも連携して自転車通学の安全を確保するなど、学園内外での安心安全な環境の整備。

※通学路での自転車事故ゼロをめざすと同時に、特殊な道路交通環境の改善整備を、ねばり強く訴えていく。

(2) 教育相談体制、サポートの充実

ア SSW(スクール・ソーシャルワーカー)とSC(スクールカウンセラー)を活用して、支援態勢をサポートする。

※本校独自の先端的活動としてプロフェッショナルなSSWを招聘し、毎月1回ケース会議を開催。

イ 障がいのある生徒の自立と進路実現を目標に日常をサポートしていく。

※生徒向け独自調査による「障がいのある生徒のために改善すべき点がある」(H25=86.7%)を初年度10%以下に

(3) 地域との連携や、部活動・生徒会活動の活性化

ア 教育活動に地域や保護者の皆さんに積極的に参加していただき、地域に支持される「グローバル・リーダーズ・ハイスクール」をめざす。

授業参観ウィークを設定(11月)すると同時に、通年で授業を公開し、在校生の保護者や、本校を進学先と考えている中学生とその保護者を歓迎する。

※授業参観ウィークの学校訪問者数100人。

※地域の支持を表している数値=後期入学者選抜志願倍率(2014=1.14)を、府立高校(全日制普通科)の平均(2014=1.23)以上にする。

イ 「生徒が主役」の生徒会、学校行事、HR活動、委員会活動、部活動をサポートする。
 ※現存する部活と生徒の希望する部活がマッチしているか調査を実施し、ギャップがあれば適宜見直して、クラブ加入活動率 80%超 (H25=55%) とする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年11月実施分]	学校協議会からの意見
<p>○まず、生徒の学習面から見てみると、</p> <p>①「授業がわかりやすい」(37.4%→60.6%)、②「自分はどの授業も真面目に取り組んでいる」(58.8%→75.4%)といずれも昨年度の肯定値を大幅に上回った。この項目は今回の目標値を70%以上と掲げていたものであり、②については基本的な生活習慣を身につけた真面目な生徒が増えているものと考えられるが、クリアできなかった「授業のわかりやすさ」については3年生の73.4%、2年生61.0%に対して、1年生が48.9%と半数を切っており、1年生における授業での創意工夫が求められる。</p> <p>また、内容を問う項目が、昨年度は「授業では、教え方にさまざまな工夫がされている」(47.0%)という具体性に欠く1項目のみであったので、今回は次の2つに変えてみた。</p> <p>③「先生は授業で生徒が発言する(質問に答える、意見を言う、発表する、討論する、等)機会を設けている」(74.1%)、</p> <p>④「先生は授業などでコンピュータやプロジェクター等の情報機器を活用している」(31.3%)。</p> <p>このうち、③については、教師による一方通行の授業を極力排し、日々の授業で、コミュニケーション能力(CS:Communication Skill)のトレーニングを意識させると謳った中期目標が教員に意識された結果と言える。</p> <p>一方、その手段として現在推し進めている『ICTによる教育環境整備』に関わる項目④の肯定値が低い理由としては、整備事業初年度のため、授業環境の中途半端な面が災いし、肯定値ほぼ半数の1年生(49.4%)以外は授業に落とし込むまでに至らなかったと考えられる。来年度以降、環境が整うに従い確実に肯定値も高まるものと考えている。また、実践的な教員向け研修等も必要と考える。</p> <p>⑤「自分は図書室を活用している(本を借りる等も含む)」(21.9%)については、『図書室がクラスルームから離れている』、『従来から図書館活動が行われていないに等しい』、『図書室の蔵書が貧相である』等のマイナス面が以前より言われてきたところであるが、今年度は『思考力の源泉である「語彙力」を増強する。』と謳って、ズバリ図書室を情報発信基地として整備を行った。また、図書室をベースとして知的書評合戦ビブリオバトルを本校に導入、本校は大阪代表として近畿大会にも出場するなど活発化しつつある。生徒全体が関わっていける仕掛けを工夫すれば大いに伸びる余地がある。</p> <p>○生徒指導等について、</p> <p>⑥「部活動は活発である」(78.3%→91.8%)。大方の生徒が活発と認識している通り、今年度は運動部・文化部とも地区大会優勝や上位入賞者を多数輩出している。この成果は生徒の努力は無論の事、可能性を引き出すクラブ顧問の努力によるところが大きい。クラブ顧問の負担軽減が今後の課題である。</p> <p>⑦「生徒は交通マナーを守っている」(67.8%)は、昨年が「<u>自分は交通マナーをよく守っている</u>」(72.1%)という項目であった。今年は登下校時の事故が複数回あったことも影響し、このような数字になって表れたのだと考えられる。交通マナー遵守の徹底が課題である。</p> <p>○全般的には、昨年度の肯定値が71.3%であった「学校生活に満足している」が、今回87.6%と高い数字になり、生徒の期待には概ね応えられたのではないかとと思われる。</p> <p>○教職員の回答より 肯定値が50%を切った項目を順次挙げてみると、①「学校長のリーダーシップが発揮されている」(42.1%)、②「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」(41.1%)、③学校として、読書指導に積極的に取り組んでいる」(38.2%)、④「教員は授業などでコンピュータやプロジェクター等の情報機器を活用している」(37.5%)、⑤「教員が一人で問題を抱え込まない体制が整備されている」(48.1%)となる。項目①②⑤は、スムーズな運営の為の学校組織の再構築、教員の負担軽減に繋がる体制作りにより早急に取り組む必要があると考える。③④については、生徒の学校生活がより充実するために、研修等を増やしたいと思う。</p> <p>○保護者の回答より</p>	<p>◎第1回 7/2(水)</p> <p>【 生徒指導関係 】</p> <p>○交通安全対策 正門前の道路の危険な状況については、H26年2月に信号機設置に関する「要望書」を近隣小・中学校長、自治連合会長と連名で警察署に提出済。</p> <p>〈意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校側の安全指導は理解するが、近隣小中学生に高校生を加えると通学路を3000名が通ることになる。安全面を考えると、高校生の自転車マナーを徹底してもらっても危険な場面は出てくるだろう。 ・学校から離れた場所での表面化していない自転車事故が多いと思われる。 ・自転車に乗りながらのスマホ使用は何かならないか。命に係わる問題である。スマホの指導は強化すべき。 <p>【 学校経営計画について 】</p> <p>○全体について校長より説明 ポイントは「0+1」!</p> <p>○府教委事業「ICTを活用した先進的な学習環境構築プラン」に選出される。</p> <p>○言語技術に関して</p> <p>「傾聴力」「angea manegiment」「セルフ・コントロール」</p> <p>「読書」→教員がお薦めの本を選ぶ&直接生徒に薦める。</p> <p>校内ビブリオバトル(知的書評合戦)を開催の予定。生徒の言語技術向上を図るとともに、地区大会・全国大会参加をめざす。</p> <p>〈意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画の内容がすばらしい。 ・「言語技術」は、生徒にも、また教員にも身につけてもらいたいところ。例えば、最近の生徒は叱られ慣れていない。その点に注意が必要。 ・目標数値を達成するために、具体的にどうするかを次回は各分掌から伺いたい。 <p>◎第2回 11/11(火)</p> <p>【 安全安心 】</p> <p>○府立学校初!緊急地震速報リアルタイム受信鳴動システム導入</p> <p>○金岡発!「上履きスリッパ」問題提起&府立高校全校調査実施へ</p> <p>〈意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪府立高校における上履きスリッパ導入率がかなり高いことが判明。 ・かかとの無いただの「つっかけスリッパ」は、来るべき西日本大震災時に命取りになる危険性大である。生徒の命を守るべく、生徒指導研究会に問題提議を行う必要あり。 <p>○PTA共催「アンガーマネジメント研修」(11/26)実施について</p> <p>〈意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来あまり意識されてこなかった領域だと思われる。開催は本当に有意義であった。 <p>【 学習・学力・進路 】</p> <p>○学年横断「カナオカン3年間育成プラン」作成予定</p> <p>○本年度入学生から「個人の成績データ時系列管理」スタート</p> <p>○教育産業の学力生活実態調査など模試導入</p> <p>○来年度入学生(42期)の新カリキュラム作成中</p> <p>〈意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の姿勢、生徒の取組みが具体的に見えるようになった。 <p>【 言語技術 】</p> <p>○後援会協力「部活サポートファンド2014」生徒プレゼン大会。生徒の必死のプレゼン力に高評価集まる。</p> <p>〈意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感動した。後援会の活動が視覚的に見えて非常に良かった。 ・来年度も継続をしてほしい ・後援会の入会促進については、学校にも協力をお願いしたい。 <p>○企画・実行・表現する力を育成する「帰宅部(企画部)」創設</p> <p>〈意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の居場所づくりに有益なおもしろい活動! ・サッカー部公式戦応援のためにバスをチャーターするなど、学校の活性化になる。 <p>【 広報PR 】</p> <p>○「ホリエモン 一日校長&講演会」実施(7月)</p> <p>(1)ニコニコ生放送(公式番組)約35,000人がWebで視聴</p> <p>(2)YTV、MBSなどテレビ各局のニュース番組で報道</p> <p>(3)共同通信配信(全国地方紙、スポーツ紙、ネットニュースなど)</p> <p>(4)twitterなどSNS</p> <p>〈意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金岡高校は何かやってくれる`というイメージができ、生徒にとって良かった。 <p>○NHK『サラメシ』、MBS『魔法のレストラン』などで金岡高校を紹介してもらう。</p> <p>〈意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『サラメシ』は10分程度食堂を中心に取り上げてもらい、大きな反響があった。

概ね、肯定値は、本校の指導や体制が、好印象・高評価の回答となっているが、課題は回答率30%をどう引き上げていくかに尽きる。回答率が高まることによって、肯定率は大きく変わってくる可能性を秘めており、回答してもらう為には、まず保護者との「信頼関係」が問われてくることと思われる。

- ・対外的PRとしても、在校生にとってもよかった。
- ・年一回、同窓会では会報を同窓会員に届けている。学校の`今`をできる限り伝えていきたい。会報を通して流せる情報は、早めに共有したい。

◎第3回3/24(火)

【 進路指導 】

○進学「7人！80人！」

大学合格者数、難関大学に7名。中堅私立大学に80名合格。京都の大学への志願者増加。

〈意見〉

- ・大学との距離感を知らないので、Mapにして視覚的に距離が分るようにするなど、さらに工夫を。
- ・「進路保障」は、中学生や保護者が学校を選ぶ際の重要な点となる。年間計画における難関大学の目標は10名。昨年度に比べて確実に伸びているので、これからも数値をなんとか上げてもらいたいもの。2桁は印象が違う。

【 生徒指導 】

○「新手帳に変わります！」

生徒手帳をB6サイズの使えるスケジュール帳サイズに変更。

ねらい→スケジュール管理をする、できる社会人としての習慣づくり。

先生からの情報をしっかりメモし、自分で確認。

〈意見〉

- ・生徒にとって社会人となるためのいい訓練ともなる。
- ・新手帳について 生徒が携帯するには、「やや大きいかな」と感じるが活用報告が楽しみ。プラス思考でとてもよい。
- ・携帯電話について、携帯やスマホ等の使用メリット、デメリットが整理されていないので、整理したうえで、使用時間は何時間がよいか等、保護者と協力して考えていけないか。

【 通学路関係 】

○本校正門付近を数年かけて変える予定。外壁と、駐輪場を撤去し、景観をよりよくする。

近隣に幼稚園ができるが、この工事を機に自転車による事故の防止を徹底。

〈意見〉

- ・通学時のマナーについて 近隣とのトラブルが多く当方にも苦情あり。事故の対応等についても学校から説明があれば助かるが（事故を起こした時の他、事故に遭った時も）。自転車通学でのスマホは、道交法違反。

【 「探究（笑育）」 】

○21世紀型スキル・・・正解のない時代に、自ら問題を発見して共同で解決していく能力を養う。4月30日に最初の授業。

〈意見〉

- ・「探究（笑育）」について 金岡高校にとって大きな特色である。また、時代の要請にもマッチしている。ぜひとも継続して成功させてほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 学習 & 生活習慣の確立と基礎学力の定着、進路実現</p>	<p>(1) 授業力を改善 & 最強化し、基礎学力の定着を支援 ア プロジェクトチームを結成し、授業改善を推進 イ 全授業の冒頭でタイトル(めあて)を明示 ウ 生徒のデータの一元化とトータルな学習支援プランの作成と実践 エ インターネット双方向ライブ配信システムを構築してリアルタイムでインタラクティブなサテライト授業の実施 (2) 生活習慣の確立と、一人ひとりの時間創造をサポート (3) 学力 & 生きる力の源泉「言葉のチカラ(言語技術)」を徹底マスター「骨太の日本語力養成プロジェクト」</p>	<p>(1) ア・若手を中心に授業力改善 & 最強化プロジェクトチーム「チーム・ゼロ・プラス・ワン」を編成する。 ・全教員が ICT を利活用した実験授業に挑戦。 ・全教員が他の実験授業を観察、助言しあい、成果検証を行い、改善点について全教員で情報を共有する(9~1月)。 ・第1回の授業アンケート(7月)で課題を把握し、第2回(12月)での改善を推進、次年度計画に活かす。 イ・全授業の冒頭で、その授業のプラス・ワン＝「タイトル(めあて)」を明示する。 ウ・首席を中心に、1学期中に生徒のデータ一元化を図り、3年間にわたって一人ひとりをきめ細かく観察、指導していくための基礎データを作成する。 ・夏と春の勉強合宿で学習習慣の定着 エ・他校指導教諭によるサテライト講習の実施 ・パートナー校との双方向授業実施(初年度試行、2年目以降定期実施)。 ・本校教諭による小中学校へのインターネット出前授業配信(年間10回) ・本事業でのトライアルと成果を府立学校全体で共有できるよう基礎データと情報を蓄積・発信。 ・3年後には私立高校や大学、海外とも連携し、授業交換を行う(週1回程度)。 (2) ア・生活実態調査を実施し、時間管理術を指導。 (3) ア・読書実態調査を実施し、高校生の全国平均(月1.7冊)と比較し、読書を促す戦略を練る。 ・各教科ごとに「高校時代に、絶対これだけは読んでおきたい5冊」を選定し、図書室に並べると同時にネットで公表。各授業にも援用して、教科ごとの読書率を競う。 ・漢字検定や語彙力検定など日本語力テストを本格的に導入し、次年度以降の全員受験へ向けての地ならしとする。 イ・日々の授業で、コミュニケーション能力のトレーニングを意識して実施 ・知的書評合戦ビブリオバトルを試験的に導入して次年度以降の本格的な取組みに活かす。 ・演劇やお笑いを授業に活用すべく準備する。 ウ・ソーシャルスキル(傾聴力ピアリスニング、アンガーマネジメントなどのエモーショナル・リテラシーなど)の各種トレーニングSSTを、まずは、教員向けに実施し、次年度以降の生徒向けカリキュラムや教材を作成する。</p>	<p>(1) ア・実験授業挑戦率100% ・学校教育自己診断「授業はわかりやすい:肯定37.4%」を70%以上に ・学校教育自己診断 ICT 関連項目の満足度70% ・学校教育自己診断「授業の工夫満足度」40%を60%に ・2回目の授業アンケート結果における生徒の授業満足度80%以上に イ・タイトル明示率100% ウ・新1年生のデータの一元化を100%実現(1学期中) ・新1年生の3年にわたるトータルプラン作成 ・夏と春の勉強合宿に、延べ80人参加 ・学力不足による留年、中退者ゼロ ・難関校(国公立・関関同立)合格者10人、私立中堅校100人超 ・生徒の希望する進路の実現率を80%超 エ・参加者満足度80%以上 ・教職員の授業改善に対する肯定率の向上 ・現役大学進学率45.7%(H25)を50%(H26)⇒55%(H27)⇒65%(H28) ・進路希望実現率をH26から調査し、H27、H28と前年比10%アップ (2) ア・携帯・スマホの使用時間を、高校生平均使用時間(男子4.3時間、女子6.4時間)の半分以下に イ・総遅刻者数3,000以下に (3) ア・図書室利用者数(H25=平均5人)を30人超に ・高校生全国平均一カ月1.7冊を上回る ・漢検受験者100人(現在10人) ・検定高校生レベルの合格率 初年度70%以上 イ・生徒向けの学校教育自己診断の授業参加度を70%以上に ・校内ビブリオバトルの月1回実施(7月~)とビブリオバトル大阪大会出場 ウ・教員向けSST研修参加率100%</p>	<p>(1) ア・実験授業挑戦率37.5%。(△) ・昨年度「授業はわかりやすい:肯定的回答37.4%」を、60.6%まで高めたものの、目標にはまだ開きがある。来年度は80%をめざす。(○) ・ICT活用に関しては今年度の環境整備が改革初年度のため中途半端であったことは否めないが、肯定値向上をめざす。(△) ・「先生は授業で生徒が発言する機会を設けている」(74.1%)等が示すように各教員の努力が現れてきている。(◎) ・生徒の授業満足度75.0%。僅かに目標に達せず。(○) イ・タイトル明示率65.0%。全体的に定着しつつある。(○) ウ・従来より各分掌や学年にデータが分散していたが、新1年生に関しては一元化を実現。(◎) ・新1年生学年団や分掌長の努力もあり、トータルプラン作成に漕ぎ着ける。(◎) ・22名・14名の延べ36名にとどまる。次年度は今企画より効果的であろう別プランを思案中(△) ・学力不足による留年者は2名。(○) ・難関校(国公立・関関同立)合格者7人。私立中堅校合格者80人。もうひと頑張りといえる。(○) ・生徒の希望進路実現率は、目標を上回る87.6%。(◎) エ・参加者満足度は100%を達成。(◎) ・教職員の授業改善に対する肯定率55.4%。意識ある教員が増えている事を実感。(○) ・現役大学進学率45.2%。家庭環境や地域性等もあり、優秀な生徒が看護医療系学校に流れるなどの実態がある。(△) ・進路希望実現率59.3%。より実現率アップをめざす。(○) (2) ア・平均使用時間4.4時間。高校生平均を下回るも半分以下にはならず。(○) イ・総遅刻者数2,519。今年度の目標達成。(◎) (3) ア・図書室利用者数は10人。倍増するも目標には遠く及ばず。(△) ・平均3.04冊で全国平均を上回った。(◎) ・目標に僅かに届かず94名。生徒の受験意識は高まっている。(○) ・準2級以上の合格率57.5%。やや厳しい状況。今後の本校の多彩な取組により期待は大。(△) イ・「先生は授業で生徒が発言する機会を設けている」(74.1%)から伺えるように、授業に生徒が参加できる環境は整いつつあると考える。(◎) ・「ビブリオバトル in 金岡高校」を3回実施、「ビブリオバトル in 堺市立図書館大会」出場、「全国高等学校ビブリオバトル2014 関西大会」出場(11/16)、「ビブリオバトル甲子園大阪代表として出場(12/13)。(◎) ウ・教員の研修参加率40.3%。残念ながら目標は達成できず。(△)</p>

府立金岡高等学校

<p>2 安心安全でグローバルな学校づくりと環境整備</p>	<p>(1) 安全安心な学園環境を整える ア 教師による上から視線を避け、心穏やかな学園空間を演出 イ 通学路など学園内外での安心安全の確保</p> <p>(2) 教育相談体制、サポートの充実 ア SSW のケース会議で教育相談支援 イ 障がいのある生徒の自立・学習支援</p> <p>(3) 地域に支持される「グローバル・リーダーズ・ハイスクール」 ア 地域や保護者の皆さんの学校参加 イ 生徒が主役の学校づくり</p>	<p>(1) ア・「金高スマイル・プロジェクト」を編成し、よそさまの大切な子供を預かっているのだという意識の醸成と穏やかな学園空間づくりを心がける。 ・「命令形のアナウンス・ゼロ運動」を実施。また、朝の登校指導での怒声を禁止し、「きょうも学校に来てくれてありがとう！」というウェルカム精神で気持ちよく生徒を迎えて一日をスタートする。</p> <p>イ・地域やPTA、周辺の小中学校とも連携して、通学の安全を確保する活動を展開し、小さな改善を積み上げていく。</p> <p>(2) ア・SSW中心のケース会議を毎月開催して学級運営や学習支援をバックアップする。 イ・障がいのある生徒の自立と進路実現を目標に、環境を整備し、日常をサポートしていく。</p> <p>(3) ア・通学の安全確保や各種イベントなど日々の教育活動への地域や保護者の皆さんの積極的な参加を促し、協力を仰ぐ。 ・授業参観ウィークを設定(11月) イ・「生徒が主役」の生徒会執行部、HR活動、委員会活動、部活動、行事をめざすべく、教師の意識改革を促す。教師はあくまで黒子で、陰のサポート役に徹する。</p>	<p>(1) ア・総括ほか校内文書から使役の助動詞「～させる」など使役の表現を極力排する。(文書1ページに1箇所以下) ・命令口調の校内アナウンスや登校指導の怒声をゼロにし、関連する外部クレームをゼロに イ・自転車通学の事故ゼロ ・正門前道路の北側に信号機の設定</p> <p>(2) ア・SSW ケース会議を月1で開催。独自調査による教師の精神的負担軽減指数80%以上 イ・生徒向け独自調査による「障がいのある生徒のために改善すべき点がある」(H25=86.7%)を初年度30%以下に</p> <p>(3) ア・後期入学者選抜志願倍率(2014=1.14)を、府立高校(全日制普通科)の平均(2014=1.23)以上に ・授業参観ウィークの学校訪問者数100人超 イ・部活動活動加入率前年度(55.9%)比10%増 ・文化祭・体育祭など各行事後の生徒向けアンケート結果における満足度80%以上</p>	<p>(1) ア・校内文書からはほぼ駆逐。達成率100%。(◎) ・命令口調の校内アナウンス・指導場面における怒声等は以前より少なくなっているものの無くならず。外部クレームもゼロとはいかず。(○)</p> <p>イ・登下校での自転車による事故が8件発生(△) ・実現の道のりはかなり険しく遠いが、府議会や堺市と連絡を密にとって対策を講じる予定。(△)</p> <p>(2) ア・SSW ケース会議に関わった教員の精神的負担軽減指数は90%。バックアップ体制がうまく機能していると思われる。(◎)</p> <p>イ・「障がいのある生徒のために改善すべき点がある」と判断している生徒は83.1%。ほぼ全ての生徒が車椅子に配慮していない校内設備や段差のある施設の改善を訴えており、授業や教員に対する意見は皆無であった。(△)</p> <p>(3) ア・後期入学者選抜志願倍率は1.16で、前年度を上回ったが、府立高校の平均には及ばなかった。(○) ・訪問者数は目標に達せず。(△)</p> <p>イ・生徒会傘下の部活動活動加入率は58.9%。加入率は上昇。なお、世間で注目を集めている帰宅部(企画部)が9月に発足。年度途中のため、生徒会未公認ではあるが260名を超える部員が活動中。(◎) ・生徒会行事に対する生徒の満足度は100%。アンケートは積極的意見ばかりで、非常に頼もしい。(◎)</p>
--------------------------------	---	--	---	---